

ニュースクリップ News Clip

あ ぐ ひと しょう こう にん
商きない工らす人びと ふくしま商・工・人

- P2 ヒストリーインタビュー
- P3 通常総会・事業計画重点事項
- P4 青年部・女性部だより
- P6 いいものmekke
福島りようぜん漬
まごころと味覚を添えて
- P8 元気印!!ズームアップ
- P10 Information 商工会だより
- P12 掲示板

サーフボードを社内一貫生産する(株)室原サーフボード製作所 代表室原真二さんにお伺いしました。

ヒストリーインタビュー

新たなサーフボードOEM製造事業に取り組んでいます。
南相馬市小高区(株)室原サーフボード製作所

2014.7.15
Vol.365



社員全員がサーフィン経験者、社内一貫でサーフボード製造しています。

(株)室原サーフボード製作所 代表をしております室原真二と申します。

小学生の頃から海が好きで、夏になるとサーフィンをする大人達を見ながら、何時かは自分もサーファーになりたいと思っていました。高校卒業後、大手家電メーカーに就職しましたが、不況の煽りを受け退職。これを機にサーフボード製造に従事しながら、平成七年まで本格的にプロ・アマ大会に出場しておりまして。その後、競技経験を活かし平成十八年五月に起業しました。

弊社は、サーフボードのシェイピング、塗装、樹脂コーティングまでの製造工程を、社内一貫で行うサーフボード製造事業所です。消費者への販売は行わず、専らB to B取引に徹しています。

サーフボード製造業界では新たな取り組みとなるビジネスモデルに組み組んでいます。

全国の取引企業様や、サーフボード店皆様のご支援により、東日本大震災と東京電力福島第一原子力発電所事故直後の平成二十三年七月には、福島市松川町に工場を借上げ、従業員を継続雇用しながら事業再開しました。また、福島県中小企業等グループ施設等復旧整備事業を活用し最新のサーフボード加工機(アクシエイパー)を導入、事業

の復旧復興に努めております。

現在は、オリジナルブランドのサーフボードの他、新たにムラサキスポーツやオッシュマンズなど大手スポーツ店や、全国のサーフボードショップのオリジナルサーフボードをOEMで製造しております。またサーフボードのシェイピングのみを行い、仕掛品で納品するといった受注にも対応しております。スタッフ四名で、これまでの二倍の約二千本のサーフボードを製造しています。

経営環境の変化は激しく①輸入品との競争、②受注生産への対応が経営課題となっておりまして。経営基盤を安定するため福島県から経営革新計画の承認を受け、サーフボード製造業界では新たな取り組みとなるビジネスモデルに取り組んでおります。

新事業は、スポーツショップやサーフショップに代わり、ITを活用しながら個々の消費者のニーズに合わせ、サーフボードをOEM製造するサービスです。実現に向け全国のスポーツショップや、サーフショップへ営業を行っております。今年は業界展示会へも出店し、サービス拡大を予定しています。

近い将来は必ず海に近い南相馬小高区に戻り事業再開したいと考えています。

震災前は、サーフボード製造部門以外に、地域のサーファーが集える場としてサーフショップSHIFFTも経営

しておりました。平成二十二年七月には南相馬市原町区北泉海浜公園に全国のサーファーを集め、南相馬市長杯を成功させるなど、サーフツーリズムを核とした地域活性化事業も企画運営しておりました。

南相馬小高区は平成二十四年四月に避難区域へ再編されましたが、工場所在地は電気以外のインフラ復旧や廃棄物処理の問題も進んでおらず、帰還しての営業再開には至っておりません。サーフボードの製造には、海の近い環境が最適ですが、生活環境や従業員のライフスタイルも激変しており、直に帰還し再開は出来ない状況にあります。

地域の復興のために平成二十六年以降にはサーフイベントの開催誘致も企画しております。近い将来は必ず南相馬小高区で再開を果たしたいと考えています。



企業概要

企業名 株式会社 室原サーフボード製作所
 代表者名 代表取締役 室原真二
 住 所 【本 社】
 〒979-2156
 福島県南相馬市小高区小屋木字一本松35-1
 【移転先】
 〒960-1246
 福島県福島市松川町金沢字麦地石1-21
 T E L (0244) 44-4311
 F A X (0244) 44-4551
 U R L <http://www.msp-japan.com/Home.html>

～ふくしまの商工業の再生を目指して～

「第54回通常総会」



去る5月26日、コラッセふくしま多目的ホールにおいて第54回福島県商工会連合会通常総会を開催した。

総会では、席上、商工貯蓄共済並びに優良商工会等の表彰を行い、続いて来賓の佐藤知事、平出県議会議長（平出議長欠席のため、長尾商売文教委員長が代読）が祝辞を述べた。

議事では、重点事業として、日本橋ふくしま館（MIDETTE）を運営する「福島県首都圏情報発信拠点アンテナショップ戦略事業」や、全国主要都市でのイベントキャラバンの展開、福島のおいしいものの食のフェアを県内で開催する「ふくしまの『食』再生応援事業」、また、避難区域の商工会、会員を広域的に支援する復興専門員の配置など、風評被害払拭、県産品消費拡大と、中小、小規模事業者の持続的な経営に向けた支援などを盛り込んだ、平成26年度の事業計画を決定した。

「平成26年度 事業計画重点事項」

1 東日本大震災・原発事故の被災中小企業・小規模事業者に対する商工会組織を挙げた支援の実施

- 1 東日本大震災及び原発事故に伴う中小企業・小規模事業者の再生・再建と避難地域商工会機能の回復・強化への支援
- 2 原子力損害賠償の完全実施への支援
- 3 被災商工会に対する商工会組織を挙げた支援の実施
- 4 被災商工会等の復興ビジョンに基づく事業の実施

2 原発事故による風評被害払拭と消費拡大に向けた取り組み

- 1 福島県首都圏情報発信拠点アンテナショップ戦略事業（福島のおいしいもののアンテナショップの運営）
- 2 ふくしまの「食」再生応援事業（全国主要都市における商品販売イベントキャラバン事業の実施）
- 3 福島のおいしいものの食のフェア
- 4 ふくしま県産品販路拡大・人材育成支援事業
- 5 福島県の産品・加工食品放射能検査支援
- 6 被災地域の中小企業移動販売支援（軽自動車配備）

3 中小企業・小規模事業者の復興と事業持続化に向けた支援強化

- 1 中小企業・小規模事業者ビジネス創造等支援事業による経営支援
- 2 小規模事業者の持続的な経営に向けた支援の推進
- 3 福島県中小企業者復興支援事業（復興支援員の設置）
- 4 中小企業経営力強化支援法に基づく認定支援機関業務の推進
- 5 創業・業種転換支援セミナーの開催
- 6 ネットde記帳等による小規模企業の生産性及び経営力向上の支援
- 7 提案型の巡回訪問強化による経営支援
- 8 中小企業・小規模事業者に対する金融支援の強化
- 9 消費増税に係る中小企業・小規模事業者に対する支援

4 商工会の組織基盤の強化及び徹底した会員サービスの充実強化

- 1 商工会の組織基盤の強化
- 2 商工会職員の資質向上対策の推進
- 3 会員サービスの充実強化

5 商工会地域経済振興事業による地域再生

- 1 商工会地域貢献アピールプラン策定と積極的アピール
- 2 地域生活者支援システム構築の支援
- 3 地域資源を活用したコミュニティビジネス創成支援

商工貯蓄共済表彰 （目標達成商工会）



国見町、逢瀬町、三穂田町、片平町、日和田町、常葉町、棚倉町、鮫川村、松枝岐村、北塩原村、湯川村、広野町、富岡町、川内村、葛尾村、飯館村

平成25年度実施事業 優良商工会等表彰 （事業功績）

商工会事業 記帳支援事業

伊達市、内郷、国見町

（職員資質向上）

対象資格取得職員

佐藤幸子（松川町）、鈴木美知子（松川町）、佐藤貴之（保原町）、湯田晋介（表郷）、馬場英記（松枝岐村）、齋藤佳子（西会津町）、山本節子（あいづ）、石井淳子、安齊公子、貝沼久範、星野夏子（県連）

復興に向けて再スタート ～県青連第47回通常総会の開催～

福島県商工会青年部連合会の第47回通常総会が5月23日(金)、福島県知事をはじめ多くのご来賓を迎え、県下青年部員155名参加のもと、郡山市「郡山ビューホテルアネックス」にて開催されました。佐々木英明会長の挨拶後、橋本彰一部長(西田町)を議長に指名し、議案審議に入り第1号議案から第3号議案まで原案通り可決しました。

平成26年度の事業計画では、今年で3回目の開催となる「商工会うまいもんNo1決定戦」や地域の経済活動の担い手となる若手経営者及び後継者の資質向上のための青年・女性事業者等活性化セミナーの実施。そして、平成28年に開催される「商工会青年部・女性部全国組織化50周年記念式典」に向けて青年部一丸となって活動することを採決しました。

今年度より、福島県商工会青年部員顕彰の表彰が行われることとなり、人(ヒューマン)づくり部門、ネットワークづくり部門、まち(地域)づくり部門、感謝状の計8名と1団体の表彰が行われました。また、平成25年度優良商工会青年部として小野町商工会青年部、平成25年度商工会青年部全国大会顕彰感謝状を浜尾一昭さん(富久山町)が佐々木英明会長より表彰されました。



優良商工会青年部の小野町商工会青年部



通常総会の様子

最優秀賞に吉田勇一さん(小野町) ～青年部トップセミナーの開催～



最優秀賞の吉田さん(小野町)



講師の添田勝幸村長

通常総会にあわせ、同日、平成26年度商工会青年部トップセミナーが開催されました。

県内6ブロックの代表者がテーマに基づき、青年部活動において常日頃抱えている思いについて発表する主張発表大会福島県大会。そして、今年度より地区毎にユニークな主張発表応援合戦も行われました。主張発表応援合戦優勝地区は会津地区となりました。

また、「地域の魅力を磨く」をテーマに天栄村村長の添田勝幸氏の講演会が実施され、会場は熱気に包まれました。

主張発表大会では、審査の結果「青年部活動に参加して」と題し発表した、県中地区代表の吉田勇一さん(小野町)が栄えある最優秀賞(県知事賞)に輝き、8月29日に秋田県において開催される平成26年度東北6県・北海道ブロック主張発表大会へ福島県代表として出場されます。

添田勝幸村長の講演会では、ご自身の青年部活動経験を基に、地域資源の発掘や地域的魅力の磨き方についてご講話頂きました。



主張発表応援合戦

商工会女性部トップセミナー・第47回通常総会開催される。 最優秀賞(県知事賞)は滝根町商工会女性部 二瓶恵美子さんが受賞!

第47回県商工会女性部連合会通常総会は、5月13・14日、石川町母畑温泉「八幡屋」において開催され、佐藤福島県知事、轡田県連会長をはじめ、御来賓を迎え、県内89商工会から240名の女性部長・部員が参加しました。通常総会では本多一恵部長(只見町)が議長となり第1号議案から第3号議案までを原案どおり可決いたしました。

今年度の事業活動については、大型観光キャンペーン事業であるふくしまDC(ディスティネーション)が平成26年度から平成28年度にかけて全県下で実施されることに併せ、商工会女性部はふくしまDCの一員として『おもてなし隊』の“バッチ”をつけて県全体の活性化支援を図る事業の実施。



福島県商工会女性部連合会 会長 服部淳子



6ブロックの主張発表代表者の皆さん

さらには、平成28年秋に福島県が開催県となり実施する「全国商工会青年部女性部組織化50周年式典」の開催に併せて、各地域の魅力発掘のため全女性連が主催する「おもてなし交流」事業の参加及びプランの提案を積極的に展開して行くことなど、女性部の特性を生かした事業を積極的に推進することを採決しました。

また、通常総会に併せ実施した「女性部トップセミナー」では、県内6ブロックの代表者による商工会女性部主張発表福島県大会が行われ「女性部活動と地域振興・まちづくり」～探そう!地域の宝～というテーマで発表した県中地区代表 滝根町商工会女性部 部長の二瓶恵美子さんが最優秀賞(県知事賞)に選ばれ7月16日、岩手県で開催される東北・北海道ブロック大会への出場を決めました。

翌14日は、「ななくさ農園&ななくさナノブルワリー」のオーナーである関元弘(せき もとひろ)氏を迎え“夢をカタチに”と題して基調講演が行われました。

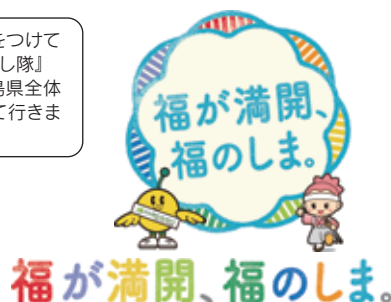
関氏は有機農業の夢を叶えるために農林水産省を退職され、現在は東和町に移住し農業の6次化を目指すため酒類製造免許を取得されました。ワインや果実酒の製造や農業体験で得られた、農業と教育をコラボレーションさせた「畑の英語教室」の取り組みなど、事業の手法や考え方次第で農業を更に価値のあるものにするのか、楽しいものにできるのかなど、私たちの事業や生活スタイルにおいても、とても参考になる貴重な講話をいただきました。



トップセミナー講師の関元弘氏



缶バッチをつけて
『おもてなし隊』
として福島県全体
を盛上げて行きま
しょう!





東日本大震災 復興応援プロジェクト版

震災から三年が経過しました。

少しずつ復興は進んでいますが、依然として風評被害の影響は深刻です。

一日も早い風評被害払拭のために、県内はもとより、全国に福島の安心安全と、美味しいものをPRし復興支援に取り組んでいる事業所を紹介します。

約50種類以上も超えるさまざまな漬物が販売され、
「故郷の味を作りたい」という先代の思いが漬物づくりに合わせながら、現在のりょうぜん漬にたどり着

分控えめで天然の調味料を使用する事により、高血圧に
なるものを作り続けています。国産の厳選素材使用、
れば表現できない味の奥深さは、食べた瞬間から口
に伝わり、また食べたくなる漬物です。

低カロリー食品です。
最適です。

は、腸内のビフィズス菌を増やし消化の働きを整え、他の
病予防に最適な健康食品です。

は、歯ぐきを丈夫にし、また、消化液の分泌を活発にして、

ん漬・とうちゃん漬

です。
をきかせたピリっと辛いきゅうりの漬物。
とう。
にりんごの果汁を加えたまろやかなきゅうりの
かに甘い感じのおふくろの味。

お客様からのもっと辛いものをとの要望から新
うちゃん漬、さっぱりめの新かあちゃん漬も誕生
しています。お酒のおつまみに最高です。



漬
。



観光バスで
のお客様が
一緒に工場見
ていただきま



親子でツーショット



お客様を全員で
お見送り



お客様に商品の
説明をする洋紀さん



まごころと味覚を添えて

福島りょうぜん漬

製造・販売元 森藤食品工業株式会社

〒960-0811 福島市大波字星の宮32

TEL 024-586-1233 FAX 024-586-1613

URL <http://www.ryozenzuke.jp>
e-mail info@ryozenzuke.jp



直営店

保原店・丸子店・川俣店・二本松店

取扱販売店

 こちらの店舗でも商品を取扱っております

エスバル福島店／福島中合／イトーヨーカドー福島店／ヨークベニマル相馬店
／ヨークベニマル(福島県内20店)／いちい(7店)／郡山うすい百貨店／郡山
駅前構内キヨスク店／福島駅キヨスク西口売店／コラッセふくしま店／霊山こ
どもの村館内／吾妻スカイライン浄土平店／福島イオン／福島空港館内／安
達太良サービスエリア(上り)／国見サービスエリア(上り)／八重洲観光交流館



現社長の森藤洋一さんと、
次期四代目候補製造販売部の
森藤洋紀さんにお話を伺いました。

～震災の被害を受けて～

本店と工場は、東日本大震災の第一原発事故からおよそ60キロの地域にあり、販売元の「福島りょうぜん漬」というネーミングから、かなりの風評被害を受けました。本店の販売所では震災前観光バスも受け入れていましたが、観光バスはおろか、客足は滞り、お客さんがゼロという日が何日も続きました。本店がある115号線沿いは、津波で甚大な被害を受けた地域へ向かう自衛隊の車や、警察のバスしか通らず、物々しい雰囲気が続いたといえます。

～感謝の気持ちを忘れずに～

このままでは、立ち行かなくなる…

そのような中、応援の手が差し伸べられました。全国各地から復興イベントの誘いが舞い込んだのです。福島から遠いところもありましたが、「呼ばれたら行く」の精神で、できるだけ出店しました。そのイベント出店の指揮系統を司る、次期四代目後継者候補の製造販売部 森藤洋紀さんです。現在も年間イベント160日出店を続け、商品の紹介だけではなく、福島の安心、安全をPRし風評被害払拭に貢献しています。

試食でおいしいといわれた時の感動は何とも言えないのですが、東北とは味覚が異なる京都に出店したとき、東北の漬物が意外にも受け入れられたときの感動は忘れられないそうです。「そのときの応援があったからこそ頑張れました。感謝の気持ちを忘れずに日々過ごしています」と語る洋紀さんに、これからの目標をと尋ねると、「創業53年の間に多くの方々にりょうぜん漬の味を知ってもらったと思いますが、まだ味わっていない方々もたくさんいます。もっと多くの方々に「福島りょうぜん漬」の味を知ってもらいたい」と、話す洋紀さんの目はとてもきらきらと輝いていました。

ふくしまおいしい大賞2013

惣菜部門で優秀賞を受賞した「よくばり漬」

七種類の野菜を一度に味わえる「よくばり漬」量が多すぎるのではと、社内の反対を押し切り、イベント等に出店したところ、他の商品よりも売れ行きが良く最近では一押しの商品となっています。

キャラクターの「かけるくん」よく見ると誰かに似ています。洋紀さんが自分をモデルに考えたキャラクターといううわさも…店頭、イベントでデビューする日も近いかも…!?



よくばり漬の混ぜご飯

従業員のの方の考案だそうで、試作中のものをいただきました。社長も初めてだったらしくすぐに「ハイ採用」炊き立てのご飯に細かく刻んだよくばり漬を混ぜただけの簡単レシピ。



三種詰め合わせセット 932円

風呂敷の柄自由に選べます
こういった思考は、従業員自ら提案があるそうです。



～また食べたくなる漬物～

創業53年の福島りょうぜん漬、日々研究を重ね、ています。自然に囲まれた霊山町(現在伊達市霊山町)という形になり、その想いを受け継ぎ、時代の二…きました。

※「健康づくりのお手伝い」という信念のもとに、塩圧の方やこどもからお年寄りまで、安心して食べられるこだわりの製造でひと手間もふた手間も加えなければならぬ。に広がる風味と後味のさっぱり感にすべて凝縮された。

※「健康づくりのお手伝い」という信念

1.ヘルシーな低カロリー

福島りょうぜん漬は、自然の美味しさそのままのうれしさに、特に、酸が余分な脂肪を燃焼させ、美容やダイエットに最適。

2.整腸作用をスムーズに

福島りょうぜん漬の豊富なビタミン・ミネラル・食物繊維が、食物の腸の通過をスムーズにします。現代病や成人病予防に。

3.大切な歯のために

歯ごたえのある食物をゆっくりとよく噛んで食べること、胃の負担も和らげます。長寿の秘訣に…

看板商品のかあちゃん漬



創業当時からの人気商品
とうちゃん漬はニンニクを
まるで頑固なお父さんの
かあちゃん漬は生姜醤油
漬物。さっぱりとしてほの



お
と
生

人気の定番商品



よくばり漬 新かあちゃん漬 新とうちゃん漬
この他季節にあわせた商品が揃っています



震災後は、このような表記が必要となりました。きちんと検査しているから、福島は一番安全なものを提供しているのです。



取材中
たくさん
あり、一
学させ
した。

ズムアツフ。

元気印

県内4地域の商工会から、地域でがんばっている会員企業をご紹介します。
みなさんの経営のヒントになるお話もたくさんいただきました。
是非、ご感想を福島県商工会連合会までEメールにてお寄せ下さい。(f-wing@do-fukushima.or.jp)

県北

松川町商工会

「笑顔をつなぐ かーちゃん味の味」



かーちゃんのカ・プロジェクト協議会 会長 渡邊とみ子氏

〒960-1246
福島市松川町金沢字船場3-27「あぶくま茶屋」
TEL 024-567-7273
FAX 024-567-7283
定休日/日曜日

■被災したからこそ願う“福幸”

東日本大震災と原発事故によって避難したかーちゃんたち。そんなかーちゃんたちが福島の「福幸“ふっこう”」のために松川町で立ち上げたのが「かーちゃんのカ・プロジェクト協議会」です。

協議会の会長をされている渡邊とみ子さんは飯館村で震災前から仲間達と飯館村オリジナル品種のかほちゃ「いいたて雪つ娘」などの生産、加工、販売等に関わっていました。

福島大学の協力や県の地域雇用再生創出モデル事業等の助成金を活用しスタートさせました。ここではかーちゃん
の知恵と技術を活かしたお弁当や農産加工品の製造販売をしています。かーちゃんオリジナル「とま



サラダ(万葉たれ)づくり



とのキムチ」は冷たく冷やしてビールのお供やそうめんの漬けたれにピッタリ!全国に300人以上いるサポーターの皆さんに応援されながら、ロゴマークに負けない笑顔で頑張るかーちゃんたちです。

■身近で頼れる存在

中小企業移動販売支援事業を活用し、仮設住宅や医大などへお弁当を配達することができています。何もないところからのスタートでしたので、様々な情報を提供して下さる商工会さんにはとても感謝しています。昨年は食のフェアへ参加させていただきまし、今年4月にオープンした日本橋ふくしま館「MIDETTE」への出品もさせていただきました。今年度は雇用再生創出モデル事業の3年目。来年からは自立した経営を行わなくてはならず、人件費を捻出するための売上目標の策定など、商工会さんからの支援をいただきながらこれからも事業展開していきたいと思っています。



県中・県南

表郷商工会

「地域の特産品となる 商品づくりを」



パン工房YOSHIDA

吉田 忠昭氏

〒961-0416
白河市表郷金山字越堀158-1
TEL 0248-32-4672
FAX 0248-32-4672

■事業所紹介

当店は、昭和15年に表郷に創業し、平成11年には現在の金山越堀に移転し、パンの製造販売を営み、私で3代目になります。

食の安全・安心をモットーに自家製のパン生地は無添加で提供しております。定番の食パン・米粉パンに加え、商品開発に積極的に取り組み「なめこパン」「スパイシーパン」「アイスパン」「金山納豆パン」などを季節限定で販売し好評を得ております。

昨年、表郷商工会で企画された「コミュニティビジネス事業(地域資源開発事業)」に参加させていただいて、地域の農業者が生産するハックルベリージャムを材料とした「ハックルベリーパイ」を講師やメンバーのアドバイスを受け、商品のブラッシュアップを重ねているところです。事業の中で、味だけではなく、顧客ターゲット、パッ



ケージデザイン、販路拡大などの講義も受け、参考にしながらお客さんに喜んでもらえる商品を、そして、地域のPRにもつながる特産品を作り上げたいと思っています。

■商工会を活かして

地域での人口減少や風評被害などもあり、現在は「おいしいパンをつくる」だけでは経営は難しいと感じております。商工会を活用することによる「気づき」や「きっかけ」をいただき、様々な角度から経営を発展させていきたいと思っています。



会津

只見町商工会

「豪雨災害からの復興」



株式会社 正家

代表取締役 酒井 正裕氏

〒968-0421 南会津郡只見町只見字新屋敷下2508-8
TEL 0241-82-2393

入浴受付時間／11:00～20:30

料 金／大人500円、小・中学生200円、未就学児無料
食堂営業時間／11:00～22:00(ラストオーダー21:30)

※14:00～17:00は軽食とドリンクのみ
定休日／水曜日

■地域の憩いの場として



(株)正家は、只見町の入浴保養施設「ひとつぶろまち湯」の指定管理者として青年部関係者により設立された法人です。平成23年7月の新潟・福島豪雨災害により大きな被害を受けましたが、平成25年9月にリニューアルオープンすることができました。娯楽施設の少ない当町にとっては、入浴と飲食を楽しめる施設として大きな期待をしております。安くおいしいものを提供したい思いから、オープンまでの間、試行錯誤しながらメニュー開発を図ってきました。本格手打ちそばや只見ラーメンは、看板メニューとして、地域の皆様からも好評を得ております。当初の予



定より1か月ほど早く入館1万人を達成することができ、地域の皆様に感謝するとともに、これからも期待に応えていけるよう更なるサービス向上を図りたいと考えております。過疎化に歯止めがかからない状況ではありますが、少しでも若い人たちの楽しめるスペースとしての機能を発揮できるよう支援していきたいです。

■商工会による創業支援

町の指定管理者ということで、事業計画・収支計画等の書類作成に苦慮しておりました。また、それぞれ家業を持ちながらの準備作業のため、オープンまで不安を感じる日々が続いておりました。メンバーの中に、飲食業の経営経験者はいないため、どのように利益確保していくかが課題でした。改めて起業することの大変さを感じていた中、商工会による創業に関する様々なアドバイスや記帳指導から収支状況確認まで支援していただき、無事に1期目の決算まで完了することができました。今後は、地場製品の活用や従業員のスキルアップのために、専門家派遣制度を活用しながら、地域貢献できる会社に築き上げたいと思います。

浜通り

榎葉町商工会

「交流を生み出す 仮設店舗」



くunchiえ広場

代表 三本木充男氏(左)
吉田 晃氏

〒970-8047

いわき市中央台高久四丁目18-6

TEL・FAX 0246-29-2939

営業時間／9:00～18:00

定休日／日曜日、祝日

■あって良かった、やって良かった

榎葉町で鮮魚店「三本木商店」を営んでいた三本木充男さんと「吉田魚店」を営んでいた吉田晃さんが共同店舗で開店した「くunchiえ広場」を紹介します。この店舗は、いわき市中央台高久の榎葉町・広野町の仮設住宅約700戸に併設した仮設店舗で、生鮮食品、菓子、惣菜、日用品等を取り扱っています。「くunchiえ」という店名は、双葉地方の方言で「ください」という意味で、榎葉町から避難している方々に、故郷に思いを巡らしてほしいと考えてネーミングされました。

くunchiえ広場の一番の特徴は、鮮魚店を営んでいたことから刺身は注文を受けてからさばいて提供するサービスを徹底しています。大手スーパーのように切り置きしないため、鮮度が良い刺身が人気を呼び看板商品になっています。

店内では地元のお客さん同士の会話が交わされ、交流の場として役割を果たしています。そのため、避難している住民から「店舗があって良かった」という声が寄せられ、三本木さんと吉田さんも「やって良かった」と感じています。



■出店の決意と経営計画

震災から間もない平成23年5月仮設店舗入居説明会に出席しましたが、2事業者以上での共同経営による仮設店舗の出店条件、避難先での営業再開になるため採算性が不安で決断することが出来ませんでした。しかし、仮設住宅には買い物に行けない高齢者が大勢いるとの声があり一念発起、再開を決意しました。私達は榎葉町商工会青年部で共に活動してきた仲間であり、老舗鮮魚店の3代目同士のため一緒に経営することについて抵抗はありませんでした。

その後、店舗のレイアウトについて中小企業基盤整備機構との連絡調整を商工会にしてもらいました。衛生面を担保するために店舗と調理場の配分に苦慮しました。販売については客層と売れ筋商品を想定し、採算がとれる1日当たりの売上を計算しました。冷蔵・冷凍庫等をはじめとする設備は特定地域中小企業特別資金を活用して準備できました。これらの経営計画は商工会事務所で相談しながら作成しました。

平成23年10月仮設店舗をオープンしてから今年でもう3年目です。これからも避難住民のコミュニティ作りに貢献するため事業継続して参ります。



Information

商工会だより

魅力ある街づくりを目指して 保原町商工会



保原町商工会長の佐藤晃司と申します。保原町は福島市の北東側に隣接した伊達市の中心地に位置し、人口は約二万四千人です。

観光名所も多く存在し、木立に囲まれ荘厳な雰囲気のある「薬師堂」や独眼竜政宗が金鉱を隠すために堤防を築き沼にしたという説がある「高子沼」など、見どころも多くあります。

平成二十四年度より、「ふくしまの再生に向けた『復興元年』」と位置付け、中心市街地の賑わいを創出し商店街の活性化を図るため、新庄市の二〇〇円商店街の創設者である齋藤理事長との勉強会を重ねながら「ほばら二〇〇円商店街・二〇〇円縁日」を実施しました。

また、伊達市の除染作業を請け負われた㈱大林組・清水建設㈱から社会貢献の一環として協力を頂き、保原町の冬の一大風物詩として陣屋通りのケヤキと高さ二〇mのヒマラヤ杉に約十萬球のLEDを電飾した「恋人たちのツインXmas(Happyツリー」陣屋通りイルミネーション」点灯事業を実施しております。

大手ゼネコンが除染事業で使用する「フレコンバック」の取扱いについて、商工会を通して納入する仕組みは新たな公共事業の在り方の一つとして、今後のモデルになるのではと考えております。

また、少子高齢化が進む中、低定額料金で戸口から戸口まで送迎する「ほばらまちなかタクシー」は全国のモデル事業として運行開始以来十年目を迎え三十五万人乗車を達成し、一日平均百五十人の利用者があり、名実ともに交通不便者の足

の確保と商店街の活性化に繋がっております。

さらに昨年は、地域商店街活性化助成金を活用し、商店街の皆さんの顔写真が入ったほばらおもてなし商店街マップや商店街の統一景観を図る「商店街統一フラッグ」を作成いたしました。会員事業所を取り巻く経営環境は、依然として厳しい状況にはありますが、商工会の組織力を前面に掲げ、地域経済の活性化と地域コミュニティ機能の充実・強化に全力で取り組んで参ります。

「恋人たちのツインXmas(Happyツリー」陣屋通りイルミネーション

平成七年度より実施してきた陣屋通りイルミネーション点灯事業に、一昨年二本のヒマラヤ杉(約二十m)を新たなシンボルツリーとして「恋人たちのツインXmasツリー」イルミネーションが新聞、テレビ・ラジオ取材放送等により話題となり、市内外から多くの方に来訪いただき、冬の一大イベントとしての賑わいが創出され、地域振興及び中心商店街の活性化に繋がっております。

また、写真コンテストの実施やツインXmasツリー前で写真を撮ると「願いが叶う」といった都市伝説を発信したことにより、保原町のイメージアップと風評被害等を払拭する上でも効果を上げることができました。

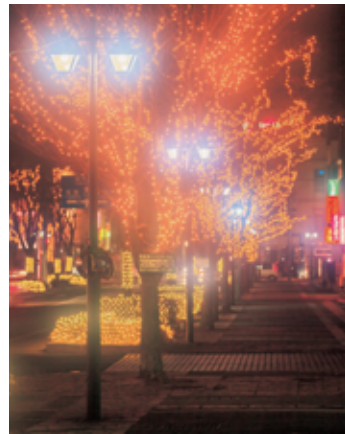


「恋人たちのツインXmas(Happy)ツリー」
旧保原町役場跡駐車場

更に、都市伝説の一環として保原小学校全児童による、将来の夢や叶えて欲しい願い事と名

前を書いた「ハート型オーナメント」を飾り付けたミニツインクリスマスツリーの点灯式を行い、家族等を巻き込んだ地域密着参加型のイベントとして賑わいました。

なお、携帯カメラ部門の写真コンテストも実施しておりますので、是非見に来て頂き、すばらしい「願い事」を叶えていただければと思います。



陣屋通りイルミネーション

ほばら二〇〇円商店街・二〇〇円縁日

商店街全体を一店の二〇〇円ショップに見立て、全ての店の店頭で二〇〇円コーナー(二〇〇円サービス)を設置。今まで入ったこともない店内の様子を知ることによるPRや各個店では専門店だからこそ出来る二〇〇円ショップならではの掘り出し物が軒を連ね、併せてスタンプラリー(五店舗まわると空くじ無し)のガラポン抽選一回できる」を実施したことにより、お客様が競って五店舗廻りするといった「ゲーム感覚」で買い物される方が多くみられ、当初予定していた景品が無くなり追加するほど、活気と賑わいが創出され商店街の活性化が図られました。

更に、「コミュニティサロン」[まちなかお茶の間「まわらん処」]及び駐車場等に、全て二〇〇円の「遊ぶブース」(スーパースクール、水ヨーヨー、すくい、射的)と「食べるブース」(焼き鳥、焼きそば)の二〇〇円縁日を開催したことにより、町内外から家族連れ(お子さんやお孫さんと一緒にゲーム等)のお客様が多く訪れたことにより、スタンプラリーとの相乗効果が生まれまし

ほばらまちなかタクシー「のつてみっか」

商工会が交通不便者の足の確保と商店街の活性化を図るため、低定額料金(一律二百円区域と三百円区域)によるデマンド型交通手段(ドアカットドア)を保原町内の全行政区・全住民を対象に一括集中管理システムと情報センターを設置し、地元タクシー会社(二社の車両(五台)を活用した運行を平成十五年三月より開始しました。また、平成十六年五月に中心市街地の空き店舗を改修した、まちなかお茶の間「まわらん処」は、ボランティアスタッフが常駐し、まちなかタクシー利用者の待合所兼市民の「コミュニティサロン」として、年間約四千五百人の利用があります。

商工会が運行主体となり、乗車収入と市補助金並びに利用度の高い病・医院等から広告料車両に広告版を設置し、協賛を頂き運営しており、商工会内に運行委員会を設置し、オペレーター・運転手との意見交換会や利用動向データ等を確認し、運行改善等を図っております。また、商業協同組合と連携し、利用券の購入に対してクルスポイントを発行しています。

保原町の生活交通として、街なかへの交通アクセスの改善や高齢者の利便性の向上により、便利な交通手段として定着し、昨年八月運行開始十年目で三十五万人乗車を達成し、一日平均百五十人の利用者があり商店街等の活性化に結びついています。

ゆるキャラ「まめっち」の紹介ポスター



Information

商工会だより

風評被害の払拭と 地域の発展を目指して

檜枝岐村商工会



檜枝岐村商工会長の
星俊次です。

檜枝岐村は、福島
県の西南端に位置
し、周囲を二千メー

トル級の山々に囲まれた人口約六百人
の非常に小さな村です。「尾瀬国立公
園」への福島県側からの玄関口として
知られ、「檜枝岐歌舞伎」をはじめとし
た歴史的文化や「檜枝岐温泉」等の観光
資源を有しており、観光関連業が村の
主要産業となっております。

東日本大震災及び東京電力福島原子
力発電所事故により、檜枝岐村の大き
な観光資源である尾瀬の総入山者数
は、環境省の「尾瀬国立公園入山者数調
査公表資料」によると、平成八年の六十

五万人をピークに減少

し、東日本大震災の翌年
には過去最低の二十八
万人まで減少していま
す。さらに、福島県側か
らの入山者数は昨シー
ズンで、六万五千人と震
災前の九十万パーセント弱
となっており、いまだに
風評被害の払拭には程
遠い状況であります。こ

のような状況下で、当商工会は会員事
業所の繁栄及び地域社会経済発展のた
め、村行政をはじめ関係機関と連携し
ながら「頼りになる商工会」を目指して
役員員一体となつて商工会運営に努め
て参ります。

地域資源を活かした特産品開発

昨年度、全国展開支援事業の採択を
受け、地域資源の掘り起こし調査、また
それらを活用した新たな特産品の開発
の調査研究事業を実施しました。

檜枝岐村の特産品である「岩魚」を活
用した「檜枝岐歌舞伎力レー」、「岩魚ふ
りかけ」等、試作を重ね今後、商品化し
て観光事業の活性化を図っていく計画
でございます。



演芸会の開催

地域コミュニティの「絆」強化、また風
評被害払拭のため観光客との交流を目
的として昨年度『演芸会』を開催しまし
た。

商工会役員、青年・女性部員が主体と
なつて運営し、地域住民及び観光客が一
体となつて楽しんでいただけたと思い
ます。

元氣ふくしま応援事業

檜枝岐村では、本年度「元氣ふくしま
応援事業」を開催しております。福島県
内全域及び、県外で避難生活を送る方
を対象として、尾瀬檜枝岐温泉観光協
会加盟施設（山小屋・旅館・民宿）に宿泊
される方に、「泊一名様につき三千円を
通常料金より割引しております。さら
に、加盟施設でご利用いただける五百
円分の商品券をプレゼントしておりま
す。

また、季節ごとに「山人祭り」「山人秋
祭り」「山人新そば祭り」と題し、それぞ
れの宿泊施設でオリジナルのおもてな
しを提供しております。

是非、この機会に、当村へおいでいた
だき檜枝岐村の自然、歴史等を味わつ
ていただければと思います。

真夏の雪まつり

（八月二、三日）

鎮守神祭礼奉納歌舞伎

（八月十八日）

歌舞伎の夕べ

（九月六日）

新そばを味わう夕べ

（十月二十九、三十日）



福島県産業復興相談センターについて

「福島県産業復興相談センター」は、東日本大震災により経営に支障を生じた事業者様の事業の再開や再生を支援するために設置された公正中立な公的機関です。(公益財団法人福島県産業復興センターが国からの委託を受けて設置。)

具体的な支援内容

①経営相談

面談やご提出頂いた資料等を通して、震災による影響や経営上の問題点、具体的な課題の把握を行います。

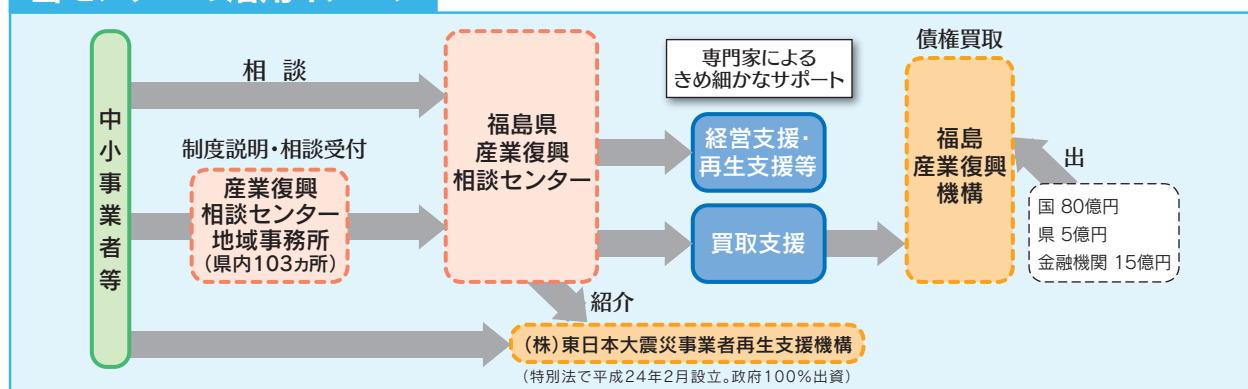
②専門家による経営支援

専門家が課題解決に向けて、きめ細かなサポートを実施し、経営改善・事業計画策定に向けたアドバイス等を行います。

③債権買取支援

二重債務問題に対応するため、必要に応じて、福島産業復興機構に対し金融機関等の債権買取(震災前借入)の要請を行います。また、福島産業復興機構と同じく債権買取機関である(株)東日本大震災事業者再生支援機構への紹介を行います。

当センターの活用イメージ



こんな悩みありませんか!!

- ✓ 東日本大震災の影響により、震災前借入金の返済が困難になっている。
- ✓ 現在は売上減少しているため東電賠償金を受領しているが、支給が減額又はストップとなれば資金繰りは困窮してしまう。
- ✓ 事業を再開するために新規借入が必要だが返済が不安である。
- ✓ 条件変更はしているが更なる変更はできないか。

このような悩みでお困りの方は今すぐ下記へご相談を!

【連絡先】福島県産業復興相談センター 電話:024-573-2561 FAX:024-573-2566
〒960-8034 福島市置賜町1-29 佐平ビル9階
相談センター担当:熊田、松本 または、最寄りの商工会経営指導員

福島県アンテナショップ

『日本橋ふくしま館～MIDETTE～』 福島美味コーナー商品募集

本会では、首都圏における本県産加工食品の情報発信と原子力災害に伴う風評被害の払しょく等を目的として今年4月にアンテナショップ『日本橋ふくしま館』をオープンし、同ショップ内商工会ブース『福島美味コーナー』の展示販売商品を募集しております。

- ◆出品条件 福島県産の加工食品で放射性物質検査を受検し、また、製造物責任保険に加入していること 等
- ◆募集期間 随時受け付けております
- ◆利用期間 原則3ヶ月間
- ◆その他 詳細については最寄りの商工会までお問合せください